



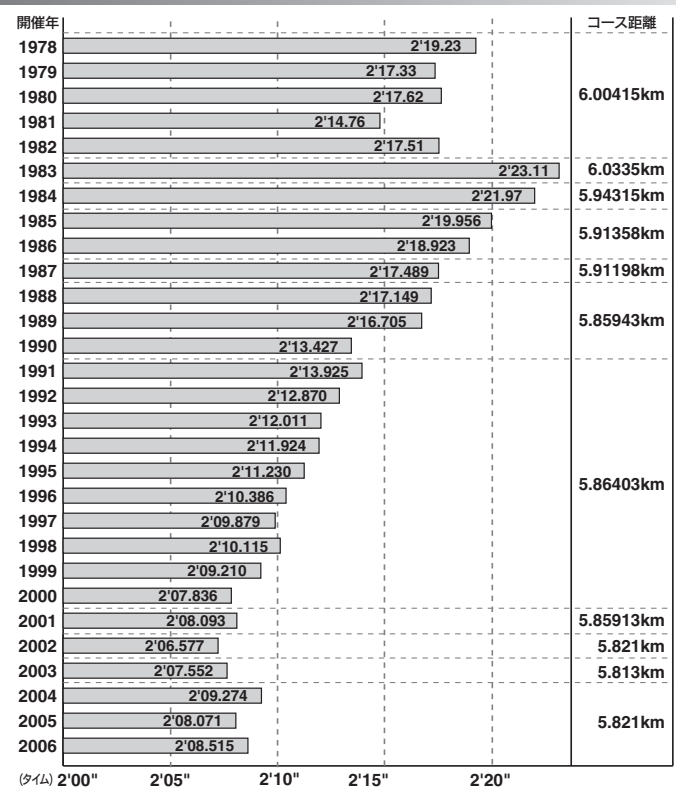
Coca-Cola zero 2007 Suzuka 8 hours

Appendix 1 8耐データファイル

●ポールポジションタイム

2分19秒台から2分08秒台へ

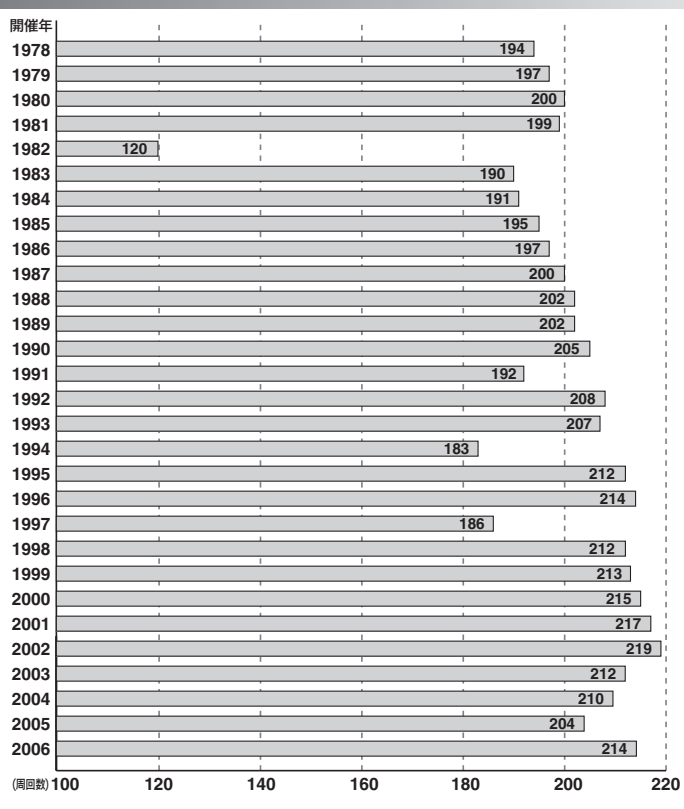
8耐の第1回大会ではヤマハTZ750を駆るデビッド・エムテ(ベアライダー杉本五十洋)が2分19秒23のタイムでポールポジションを獲得。当時の鈴鹿サーキットは全長6.00415kmだったため、平均速度は155.246km/h。その後、ポールポジションタイムは2分17秒前後で推移するが、81年にモリワキモンスターを駆りワイン・ガードナーがマークした2分14秒76、平均速度160.395km/hは、当時としては驚異的なタイムであった。ちなみに、8時間をトータルしたレースでの平均速度が160km/h台に入ったのは94年のことであり、ガードナーがマークしてから13年後のことだ。また、日本人ライダーがポールポジションタイムをマークしたのは、92年にホンダRVF750を駆った武石伸也が初。その後は2000～2001年にかけてのコース改修で距離が短くなるまでは、ほぼ毎年ポールポジションタイムは更新されてきている。2004年以降、現在のコース距離である5.821kmとなり、2006年のポールポジションタイムは、ホンダCBR1000RR(XXF Div.1)を駆る伊藤真一がマークした2分08秒515、平均速度163.05km/h。伊藤真一は4年連続となるポールポジション獲得で、自身では6度目と歴代1位の獲得回数だ。



●決勝周回数…8時間で何周走れるか

194周から214周へ

ポールポジションタイムの向上は、そのままレースにおけるラップタイムの向上をも意味している。また、鈴鹿サーキットの全長は、第1回大会の6.00415kmから、83年は6.0335km、その翌年には5.94315km、さらに85年には5.91358km、87年は5.91198km、88年は5.85943km、91年から5.86403kmと変化。そして01年には5.85913km、02年からは5.821kmへと生まれ変わった。83年を除いて、全長は短縮傾向にあるのと同時に、安全性向上への追求による改修が行われたことと、ライダーやマシンのポテンシャルは確実に高まっていき、周回数は飛躍的に向上している。96年にコーリン・エドワーズ/芳賀紀行がマークした214周を破るチームはなかなか現れなかったが、00年に宇川徹/加藤大治郎が、レース途中でフルコースコーション(ペースカーが入りスピードを落とした状態)で周回を重ねる最要注意の状況が全周に渡って出された状態がありながらも215周を走破して記録を更新する。02年には、4周プラスとなる219周と過去最高となるが、その後は210周前後で推移しており、06年は214周となっている。



2007 QMMF Endurance FIM World Championship Series Round.3
 The 30th "Coca-Cola Zero" Suzuka 8hours World Endurance Championship Race
 MOBILITYLAND CORP. SUZUKA CIRCUIT
 7992 Ino-cho Suzuka-shi, Mie-ken, 510-0295 Japan
 Tel 81 59 3781111 Fax 81 59 3784568





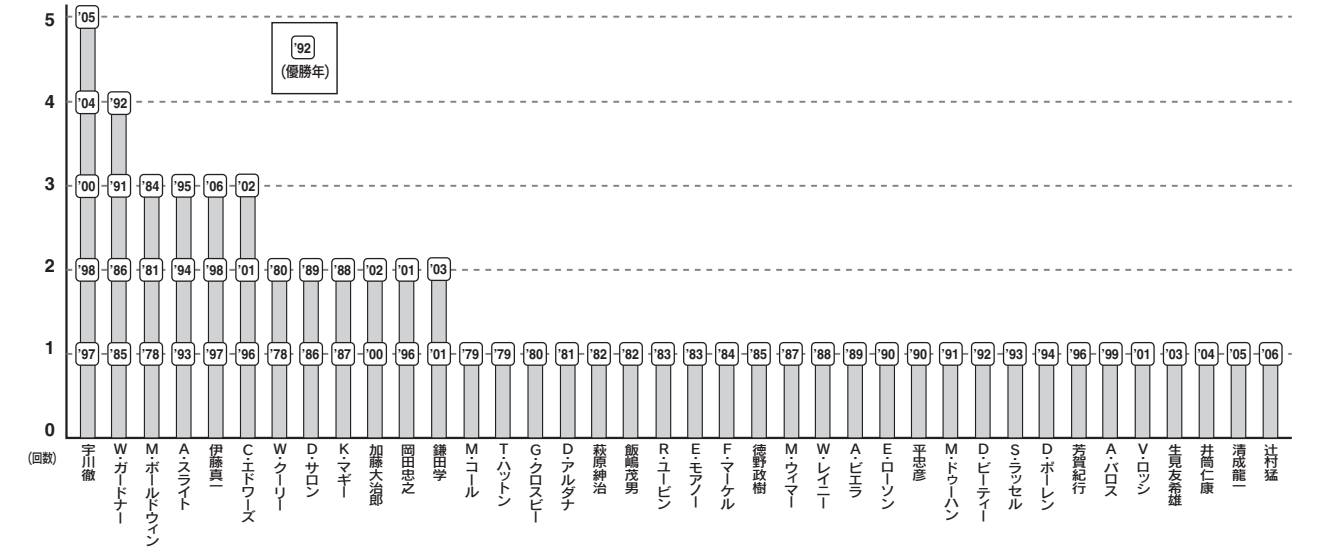
Coca-Cola zero 2007 Suzuka 8 hours

Appendix 2 8耐データファイル

●最多優勝回数

宇川 徹 5勝

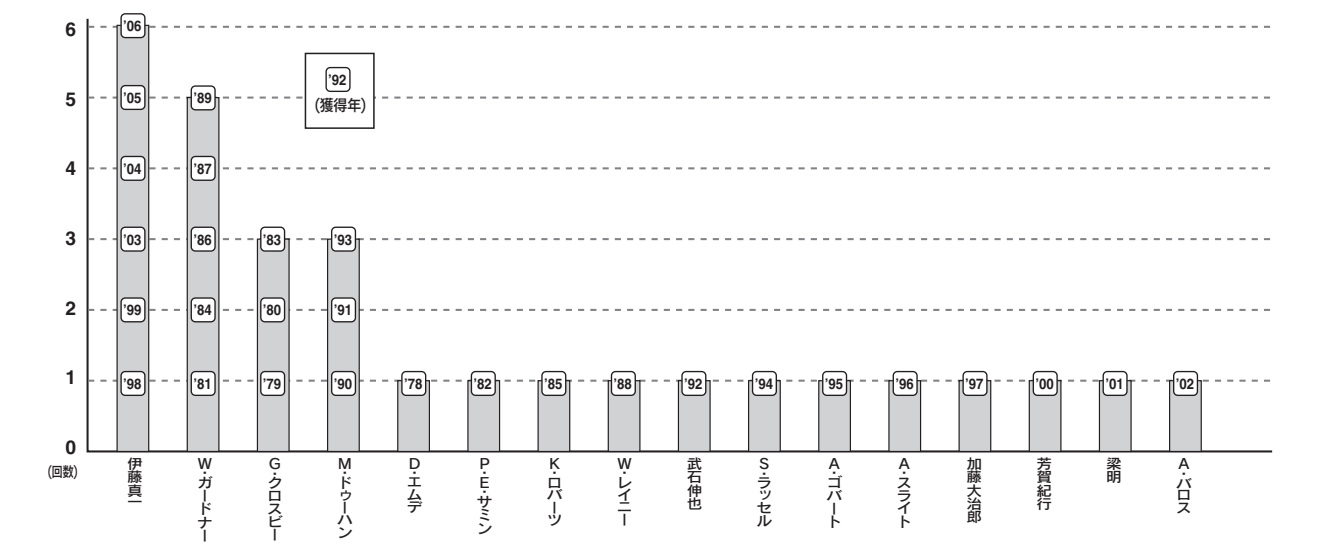
8耐と言えば、ワイン・ガードナー。81年の衝撃的なポールポジション獲得、そしてレースでの鬼気迫る追い上げは、日本はもとより世界を震撼させるものだった。その後、ガードナーはホンダのワークスライダーとなって合計4勝を挙げたわけだが、同じホンダのワークスライダーとして活躍し、2005年に現役を引退した宇川徹がその記録を塗り替えた。97年、98年に伊藤真一とペアを組んで連覇した宇川は、00年には加藤大治郎とペアを組んで8耐3勝目をマーク。井筒仁康と組んだ2004年、そして清成龍一と組んだ2005年とここでも連覇を達成し、合計5勝を挙げて、偉大な記録を更新することに成功した。



●最多ポールポジション獲得回数

伊藤 真一 6回

長く群を抜いていたワイン・ガードナーの5回に迫り、そして2006年に4年連続でポールポジションを獲得したことで、その記録を抜き去ったのが伊藤真一。伊藤は、97年、98年、03年、04年、05年、06年と合計6回のポールポジションを獲得しているが、この中で優勝したのは98年と06年。ここで、ポールシッターと優勝者の関係を調べてみると、80年のグレアム・クロスビー、86年のワイン・ガードナー、88年のウェイン・レイニー、91年のミック・ドゥーハンと、ポールtoウィン達成したのは僅かに4人(4チーム)。ポールポジションは、ライダーにとっては荣誉ではあるが、耐久レースでは、ポールポジションだからと言って、それが勝利には簡単に結びつかないということかもしれない。



2007 QMMF Endurance FIM World Championship Series Round.3
The 30th "Coca-Cola Zero" Suzuka 8hours World Endurance Championship Race
MOBILITYLAND CORP. SUZUKA CIRCUIT
7992 Ino-cho Suzuka-shi, Mie-ken, 510-0295 Japan
Tel 81 59 3781111 Fax 81 59 3784568



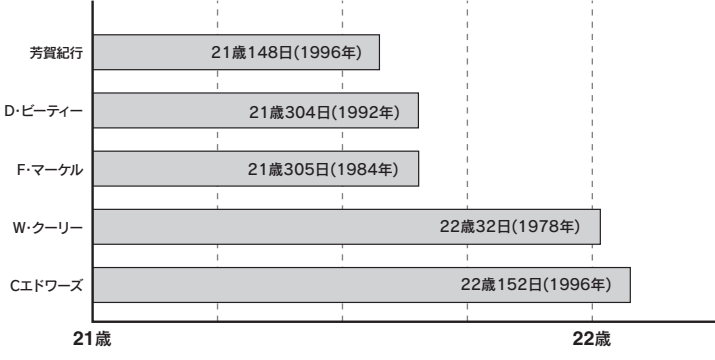


Coca-Cola zero 2007 Suzuka 8 hours

●最年少ウイナー

芳賀 紀行 21歳148日

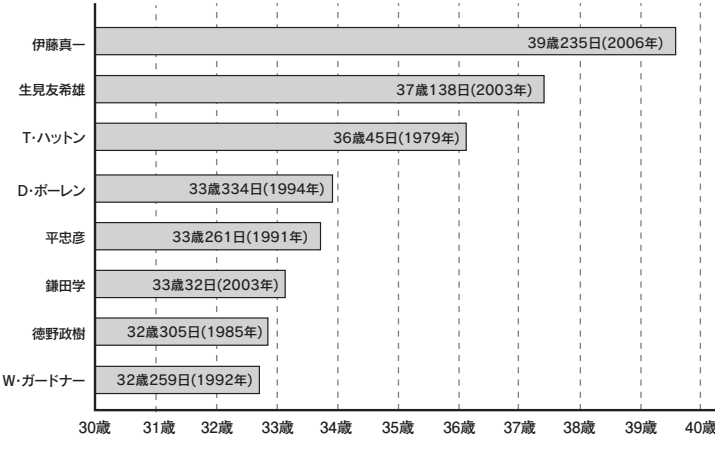
これまでの8耐での、最年少ウイナーは96年にコーリン・エドワーズとペアを組んで優勝した芳賀紀行の21歳148日。この記録は、2006年になっても破られていない。果たして、今年はその可能性はあるのか？ エントリーリストが楽しみである。



●最年長ウイナー

伊藤 真一 39歳235日

最年少ウイナーに対抗する、8耐での最年長ウイナーは、長らく79年に優勝したトニー・ハットンの当時36歳45日だったが、2003年にその記録を生見 友希雄が37歳138日と破り、さらに2006年に伊藤真一が優勝したことで、39歳235日と大きく更新した。伊藤とペアを組んだ辻村猛も32歳26日で、8耐史上最年長優勝ペアとして新たな記録を残すことになった。



2007 QMMF Endurance FIM World Championship Series Round.3
The 30th "Coca-Cola Zero" Suzuka 8hours World Endurance Championship Race
MOBILITYLAND CORP. SUZUKA CIRCUIT
7992 Ino-cho Suzuka-shi, Mie-ken, 510-0295 Japan
Tel 81 59 3781111 Fax 81 59 3784568

